

令和6年度 第8回庄内地区「子どもの声を聞く会」 発表者

学 校 名	氏 名	題 名
庄内小学校6年	森田 大翔	庄内で守りたいもの
菓子野小学校6年	臼杵 ここな	菓子野地区のいいところ
乙房小学校6年	平田 華望	私の目標
庄内中学校2年	飯干 遼亮 中野 くるみ 大野 鈴菜 刀坂 こはる 竹松 初朗	庄内地区の防災

庄内で守りたいもの

庄内小6年 森田 大翔

庄内小学校では、総合的な学習の時間に庄内小校区の伝統芸能について学習しています。そこでの「ふるさと再発見」という単元で、これまで知らなかった庄内地区の歴史や文化について、詳しく学習しました。

庄内小学校は、西郷隆盛の部下であった三島通庸氏が初代の校長先生となりスタートしました。その三島校長先生は、庄内地区の発展に貢献した中心人物です。学習を進める中で、鹿児島から庄内という全く知らない土地に来て開拓するには大変な苦労があったことが分かりました。しかし、人の為に一生懸命に動く姿は、住民一人一人の心を動かしていきました。やがて、三島校長先生は、政府の仕事で山形県に派遣されますが、最期は三島神社の神として祀られています。庄内小学校の校歌には、「維新のはじめ三島氏が 心尽くして世のために残せし功（いさお）慕いつつ 日ごといそむ民あれば里は年ごと栄ゆく」と、三島校長先生の名前がうたわれています。

また、庄内小学校には、樹齢約430年のイチイガシの木や、様々な神様が祀られている「お軍神」があります。これは都城の重要な歴史文化財にもなっています。

私は、このような、歴史のある小学校で学ぶことができることに誇りをもっています。

今年は、総合的な学習の時間に伝統芸能継承活動として、「夫婦（みと）踊り」と「南洲太鼓」を体験しました。南洲太鼓は、西郷隆盛の「御霊」に対して打ち鳴らしたことが始まりとなり、今でも継承されています。私は、毎年、西区の夏祭りに行っていますが、その祭りが、西郷隆盛に関係しているということが今回、初めて分かりました。そして、「夫婦踊り」は、6生全員で練習し、11月4日に行われた庄内ふるさと祭りで披露しました。踊りを指導してくださった末原さんから、関之尾の滝の夫婦の物語を教えてくださいました。末原さんを始めとする地域の方々の、伝統を守っていこうとする意志の強さやふるさとを愛する気持ちに感動しました。

この他にも、庄内小校区には「熊襲踊り」や「水道踊り」の伝統芸能があります。しかし、それらを継承していくことが難しくなっている現実があります。受け継いでいく人たちが減ってきているからです。そこで、庄内地区の歴史や伝統芸能継承活動について、6年生で調べる活動を行いました。そして、それぞれ調べたことをプレゼンテーションにまとめ、5年生の前で発表しまし

た。4月から最上級生になる5年生に、伝統芸能の由来やそれを継承することの意義がしっかり伝わったと思います。

私たち6年生にとって、小学校最後の3学期が始まりました。庄内小学校の自慢は、みんなが仲良く過ごしていること、朝のボランティア活動を頑張っていることです。毎朝、登校してすぐに、お互いに声をかけ合って校庭に集合し、落ち葉をはいたり、学級園の草取りをしたり、校内の階段をみがいたりしています。ボランティア活動をしながら「おはよう」の音が響くと、すがすがしくさわやかな気持ちになります。ボランティア活動を続けていることで、私たちの絆がさらに強くなっている気がします。下級生にも学校の伝統としてしっかり引き継いでいってほしいと思います。

歴史や文化を知り、守っていくことや、ボランティア活動を続けることには共通することがあります。それは、みんな庄内のことが好きだということです。私は、すばらしい歴史や文化があることを学ぶことで、さらに庄内地区のことが好きになりました。だから、誇りをもって、自分の未来に向かっていきたいです。そして、残りの小学校生活の中で、後輩たちに、庄内の歴史や文化についてもっと知ってもらえるような活動をしていこうと思います。

菓子野地区のいいところ

菓子野小学校 6年 臼杵 ここな

私は、自分が住んでいる菓子野地区には、いいところがたくさんあると思います。今日は、私が思う菓子野地区のいいところについて紹介したいと思います。

まず、菓子野地区のいいところの一つ目は、町にごみが少ないことです。登下校中に、友達と歩いていると、ごみがなくて、とても良い気持ちになります。それは、地域の方々が、通学路に落ちている落ち葉やごみを捨ててくださったり、リサイクルなどをしてごみを少しでも減らそうとしてくださったりしているからだと思います。私も、年に何回か、地域の方々と一緒にボランティアに参加することがあります。ボランティアをすることで、地域の環境をよくすることができ、とても良い気持ちになります。また学校では、6年生のみんなで、毎日朝のボランティアに取り組んでいます。登校後、朝の準備をすませたら、外に出て落ち葉の掃き掃除をすることが多いです。夏は暑く、冬は寒くて大変ですが、少しでも菓子野小がきれいになると嬉しいので、みんなでがんばっています。

菓子野地区のいいところの二つ目は、笑顔であいさつです。見守り隊の方々が、毎日大きな声であいさつをしてくださいます。元気なあいさつをしてもらえると、とても良い気持ちになります。他にも、地域のおじいちゃんやおばあちゃんが、いつも「おはよう」や「いってらっしゃい」「がんばってね」などと声をかけてくださいます。学校が終わったら「おかえり」と言ってくださいます。私は、とてもうれしい気持ちになり、毎日学校生活をがんばることができています。私もあいさつを返そうと思うのですが、恥ずかしくなり、声が小さくなってしまって、相手に聞こえていないときがあります。これからは、笑顔で、相手に聞こえる声であいさつをして、地域の方に元気を伝えられるようにしたいです。

菓子野地区のいいところの三つ目は、伝統芸能です。菓子野地区には、「今屋俵踊り」や「干草奴踊り」など、昔から受け継がれている伝統芸能があります。それぞれの地区の公民館に集まって踊りの練習をします。6年生にとっては今年が最後となりました。「今屋俵踊り」は、毎年運動会で、三・四年生が踊ります。庄内地区のふるさと祭りでも、踊りを披露します。保存会の方々が学校に

来てくださり、丁寧に踊りを教えてくださいます。私たちも、三・四年生のときに、踊りを教えてもらいました。お米の収穫への感謝と喜びを表した踊りと聞いたことがあります。五年生の時には、総合的な学習の時間で米作りを学び、地域の自然が与えてくれる豊かな恵みを知ることができました。菓子野の素晴らしい伝統芸能が、これからもずっと引き継がれていくといいと思います。

私は、菓子野地区がとてもいいなと思います。これからもいいところに目を向けて、地域のよさを残していきたいです。中学生になったら、庄内地区のよさについてももっと知っていただけたらと思います。地域のよさを知り、地域のために自分にできることを見つけていきたいです。

私の目標

乙房小6年 平田 華望

私には、3つ、達成したい目標があります。

1つ目は、みんなをまとめられる人になるということです。

この目標を立てたきっかけは、姉の存在です。姉は、リーダーとして、みんなをまとめるのが上手でした。だから姉に憧れ、姉と同じ児童委員会に4年生から入りました。

委員会に入ってすぐに、旗上げのやり方や代表委員会の進め方を先輩方に教えてもらいました。分からないことがあると、いつも優しく教えてくれました。そんな姿を見て、いつかこのような優しい先輩になりたいと強く思いました。

5年生のときに乙房ふれ愛祭りの司会を担当しました。先輩方に教えてもらったおかげで、練習のときはスムーズにできました。しかし、いざ本番になると緊張して心臓がドキドキしてしまい、言葉がスムーズに出ずに、何度もつまってしまいました。しかし、6年生は1回もつまらず上手にできていました。「やっぱりすごい」「私もこんなふうに司会をしたい!」と思いました。

そして、6年生になって、ついに憧れの児童委員会の委員長になりました。でも、最初は、何をやっても、うまくいかず、何度も泣きたくなったことを覚えています。

しかし、先輩方に教えてもらったことや、これまでの経験を生かし、乙房ふれ愛祭りの司会や全校で遊ぶ日の進行を委員会メンバーと協力して、やり遂げることができました。先生方からも「すばらしかったよ」「みんなのおかげでとても楽しい会になったよ。ありがとう」と声をかけていただきました。飛び上がるほどうれしかったです。

2つ目は、元気なあいさつを広めるということです。

私たちは、1年生の時からスクールガードさんや地域の方に見守られて、登校して来ました。そして、たくさん「おはよう」というあいさつをいただいて育ってきました。その言葉には「がんばれよ!」、「今日1日元気に過ごしてね」という応援の気持ちや、やさしさが込められていると思っています。だからこそ、乙房小学校のみんなにも、もっと、もっと元気なあいさつをしてほしいと思うようになりました。だから、児童委員会の委員長になって、あいさつ運動に取り組みました。委員会のメンバーでポスターを作って各クラスに掲示したり、朝、早く学校に来て、児童玄関のところに並んで、登校してくる人たちに大きな声であいさつをしたりしました。そこで、改めて考えたことがあります。それは、あいさつは、する人もされる人も元気になるということです。私たちは地域の方からのあいさつを通して、元気をもらっていたのです。先日、地域の方にあいさつをすると、「いいあいさつだね」「気持ちいい1日になりそうだね」と声をかけてくださいました。この元気の輪を学校だけでなく、地域にも広げたいと思います。

3つ目は、地域に貢献するという事です。

私たちは、家族や友達、先生、そして地域の方のおかげで、元気に生活できています。だから、「ありがとう」という感謝の気持ちをもつことはもちろんのこと、自分が得意なことや、できることで地域貢献が、できたらと思っています。

私の得意なことの一つはダンスです。私はパフォーマンスグループ音坊主に5歳の頃から入っています。これまで、乙房神社の夏祭りや敬老会、ふるさと祭りなどで、パフォーマンスを披露してきました。それを見た人たちが、盛り上がり、元気になってくれるように、一生懸命、練習をがんばり、全力でパフォーマンスしてきました。地域を元気にすることができたのではないかと考えています。

この3つの目標は小学校で終わるものではありません。中学校へ進学しても、さらに、その先も、持ち続けていきたいと思っています。

庄内地区の防災

庄内中学校 2年 飯干 遼亮
中野 くるみ
大野 鈴菜
刀坂 こはる
竹松 初朗

私たちは東日本大震災の年に生まれた14歳です。

この地震の被害の大きさはリアルタイムでは知りません。

中1のお正月。能登半島で大きな地震が起きました。家族団らんの時起きた地震だったので、とても恐ろしく感じました。

今年の夏、初めて自分の近いところで大きな地震が起き、他人事ではないと実感しました。

南海トラフの大地震が今後起こる可能性が高く、迫りくる災害からどう身を守っていくべきかを考える必要があります。

そこで私たちが決めたキーワードは「正しく備える」です。

私達は11月に修学旅行に行きました。

そして、テーマ「深めよう絆～防災と歴史を学び今シカできない思い出を～」を掲げ、防災について学ぶために兵庫県神戸市にある人と未来防災センターへ行きました。そこでは、阪神・淡路大震災の被害の大きさを映像でわかりやすく知ることができました。「震災の恐ろしさ」や「共に生きることの素晴らしさ」そして、「正しく備える」ことを改めて感じる事ができました。

じゃあ、地震を身近なものと考えため、私たちはふるさと庄内地区の防災の課題は何なの？

課題の一つは電柱だよ。電柱は大地震の際に倒れ、感電、火災のおそれがある。庄内地区で一番車の通りが多い場所から庄内中までの道のりに立っている電柱の数を数えてみたよ。すると、電柱の数は約60本もの数。神戸でもたくさんの電柱がドミノ倒しのよう倒れている映像を見たよね。

どんな解決策があるの？

無電柱化工事があるよ。実際に都城市内で取り組まれている例もある。でも、コストがかかることで実現が難しいデメリットもあるんだ。

そうなんだね。他には庄内地区の課題ってある？

2つ目の課題は、庄内地区には木造建築の家屋が多くあるってということだね。解決策としてこちらの図のように壁の中に筋交いを入れて耐震壁にする耐震補強工事するといいらしいよ。自分たちのできることから始めるそれが「正しく備えること」だよ。

庄内地区には高齢者も多いし、地域で助け合うことも大事だよ。地域で助け合うって何をすればいいだろう？

庄内地区の高齢者の人口の割合は 32%。災害時には高齢者への対応も課題だよ。でもね、都市には自治公民館っていう地区のつながりがあるよね。加入することで地域住民とつながりが広がるよ。他にも見守り隊や防犯・防災パトロールもあって、加入することで周りの人と助け合いやすくなるよ。

でも最近、自治会に入る人が減っているって聞いているよ。

そうなんだ。庄内地区の自治公民館の加入率は 64%。全国の加入率より低いんだ。だから、みんなで声をかけあって、加入率を上げていくことも大事だと思う。みんなで助け合うことで、被害を減らせることもあるんだ。

私たち中学生でもできることあるかなあ

僕たち2年生はせっかく防災について学んだから、公民館に入ることの大切さをうったえる CM を作ったんだ。それを公民館の方々にも見てもらう予定だから、ここでみなさんにも見てもらおうよ。

そうだね。

(CM)

防災に対して学ぶことはたくさんあるけど、「日頃の備え」も大事だよ。

みんなは家族で避難経路を確認してる？避難場所や経路は災害の種類で違うからね。その時の判断をする準備をしておかないとね。

そして、災害用バッグを準備し、災害アプリもインストールしておこう。早い情報収集や安否確認、避難場所の確認もできるみたいだし。都城市と連携してるアプリもあるんだよ。

「正しく備える」、14歳の私たちでもできることはたくさんあります。自分自身、自分の家族、自分の住む地域、まずは身の回りにあるものから備えていきましょう。